エゾリス

会 報 第 108 号《印刷はモノクロ》

エゾリスの会は、1986 年に発足した環境系まちづくり団体で、野生小動物と人間とがより良く共存できる環境づくりを目指し、現在帯広の森で「里山づくり」、「動植物調査」、「観察会の実施」などの活動を行っています。

☆うっちーさんのエゾリス観察ルポ④　街中調査始めました!

調査事項を明記した張り紙

☆モニ1000里地鳥類調査報告＆新年会

話のネタ？！

里山をつくろうプロジェクトと茶道の関係

菊炭　（キロ ¥5,000 弱）

400～700℃で炭化し、窯を密閉消火、冷却後出炭する。中でもクヌギの炭は、放射状の美しい割れ目から菊炭と呼ばれる。

大阪府池田市を集散地とする「池田炭」は火持ちが良く、火力も強い、煙が出ず火花も飛ばない、ほのかな馥郁たる香りなどで、諸国第一の炭として名声を博し（1600 年代の記述がある）、今も茶道では無くてはならぬ炭となっている。

この材を採る木はこんな姿です。

←兵庫県川西市黒川の「台遥クヌギ」
昔はシカ対策のため、高く伐ったという。

約１０年おきに伐採する「輪伐」。伐採後１～１０年の林分がパッチ状に分布する。

古来から輪伐が続く貴重な林分

近年、市民活動で管理されている林分

引用：（公財）森林文化協会　新・菊炭友の会

茶道と里山の関係とは？
新年会でのコラボにあり。

森で可愛い野鳥に出会えました

うっちーさんのエゾリス観察ルポ④

街中調査始めました!

※このコーナーではエゾリスの生態研究を行っている北大生、内田健太さんから届いた旬な情報(研究や観察で考えたことなど)を連載しています。

不思議な気持ちにさせる冬

北の大地にも長い冬が訪れました。雪の上に残された生き物たちの足跡を見ていると、『目にするとはできなくても確かにそこにいるんだ』という不思議な気持ちになります。

一層これからも精進します♪

報告が遅れましたが、７月に行われました国際野生生物管理学会 IWMC 2015 (野生動物の管理保全に関する国際会議)において、私の研究が認められ『最優秀賞』を頂きました。これを励みとして、一層研究活動に精進してまいります。この場をお借りして、帯広の皆様とリスたちにお礼を申し上げます。

意外と分かっていない都市のエゾリス

さて先日、２か月にも及ぶエゾリス調査を終えることができました。本号では、今年行った調査についてお話しします。まず、皆さんは都市のリスたちが何歳まで生きるのかを知っていますか？彼らの健康状態はどうなっているのでしょうか？答えは・・・と言いたいところですが、すみません自分も分からないです。実は都市に生きるリスに関しては、こうした基礎的なことについて未だ多くのことが未解明です。『きっと、天敵が少ないから長生きしているだろうな、餌をたくさんもらえるからデブなんだろうな～。』と色々と思うことも楽しいです。でも、基礎的な情報が全くないのでは研究ができません。

識別用の標識を装着したエゾリス

よって個体識別をして調べることにしました。

そこで、私たちは今年から緑ケ丘公園を中心に幾つかの公園でリスたちに首輪やタグを着けて、追跡研究を始めました。６月に参加した国際リス会議の際に、海外の研究者に教わった個体識別用の研究手法を帯広でも実践することになりました。私たちは、１匹１匹を見分けることでリスたちの寿命や死因、健康状態、公園利用を調べます。

毎年たくさんのエゾリスが車に轢かれています。

例えば、帯広市では毎年少なく見積もっても、なんと40 – 50 匹のリスたちが交通事故に遭い命を落としています（畜大の柳川先生の報告から)。都市のリスたちは公園間を頻繁に行き来しています。その道中で遭遇する車やトラックの脅威は計り知れません。どんなリスが轢かれやすいのか、何故轢かれやすいのか、追跡研究を行うことで多くのことが分かってきます。実際、郊外のリ

道路を横断する町のエゾリス。出会うたびにヒヤヒヤします

スよりも都市のリスの方がおデブな傾向がありそうな結果が出てきています。

人間とリスたちの共存に役立てたい！

しっかりとした結果が得られるのは、来年以降になる予定ですがデータが集まりましたら市民の皆様に公表していきたいと考えています。こうした研究結果が微力ながらも、人間とリスたちの共存を目指した町づくりの一助になればと考えています。

＊なお、標識装着と調査は北海道庁及び帯広市の許可を得て、帯畜大と共同で取り行っております。また、私たちは動物倫理講習を受講し、世界基準に準じたリスへの影響を配慮した方法で調査を実施しております。

☆モニ1000里地鳥類調査報告　池田 享嘉さん

ここ数年恒例になった、鳥類調査からの新年会、今年も１月２４日に行われました。

冬季調査は人が集まるかどうか心配です。１５分ずつ３班に分けて出発するので、もし集まらなければコースを２周する班がでてしまうからですが、ぎりぎり３班間に合いました。

.冬の調査はかんじきが必需品です。

珍しい鳥が多いわけでもなく、冬季は普通種も多くはないので、バードウオッチング的な人気はないのですが、この調査は全国的な長期調査であると同時に「帯広の森の生長を鳥類に評価してもらう」ものですから、普通のものが普通に見られるようになることが大切なのです。

鳥以外の森の様子も気にしながら歩くこともできます。間伐などの作業時は案外落ち着いて見渡せないものですから。

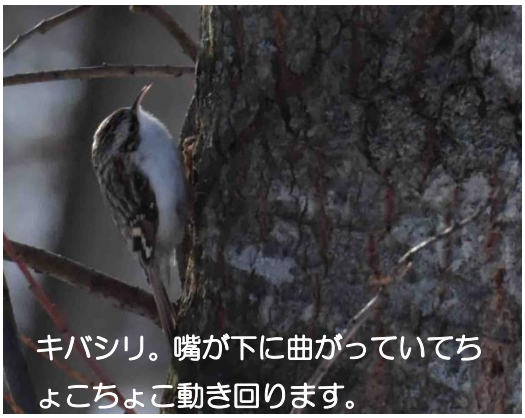
調査中にエゾリスがまるで「消防レスキュー」のように細い枝にぶら下がって進み、地衣類を食べている姿に出会いました。

逆さになって枝を伝うエゾリス。

それから珍しくＦ調査区でキバシリを見ました。この調査区はかなり明るい疎な林で、深い森にいる印象があるキバシリが見られたのは幸運だなと思いました。

私はエゾリスの会では、自然から貪欲に楽しみを掘り出し続けるとか、会員にサービスするのではなく、自然が復元していくプロセスに淡々と関わった結果、「たまに」自然から喜びをもらうことがある、という気持ちでいます。

会の活動もそんな感じなのであまり人が多くはありませんが、こういうのがいいな、と思ったら参加して欲しいな、と思っています。


キバシリ。嘴が下に曲がっていてちょこちょこ動き回ります。

寒い季節の調査や作業は大変ですが、たまに
自然から喜びをいただけることは嬉しいですね。
たまに、だからいいのかもしれません。

新年会はお茶と骨？

アライグマ、ウサギやタヌキなどの骨に群がる人達。

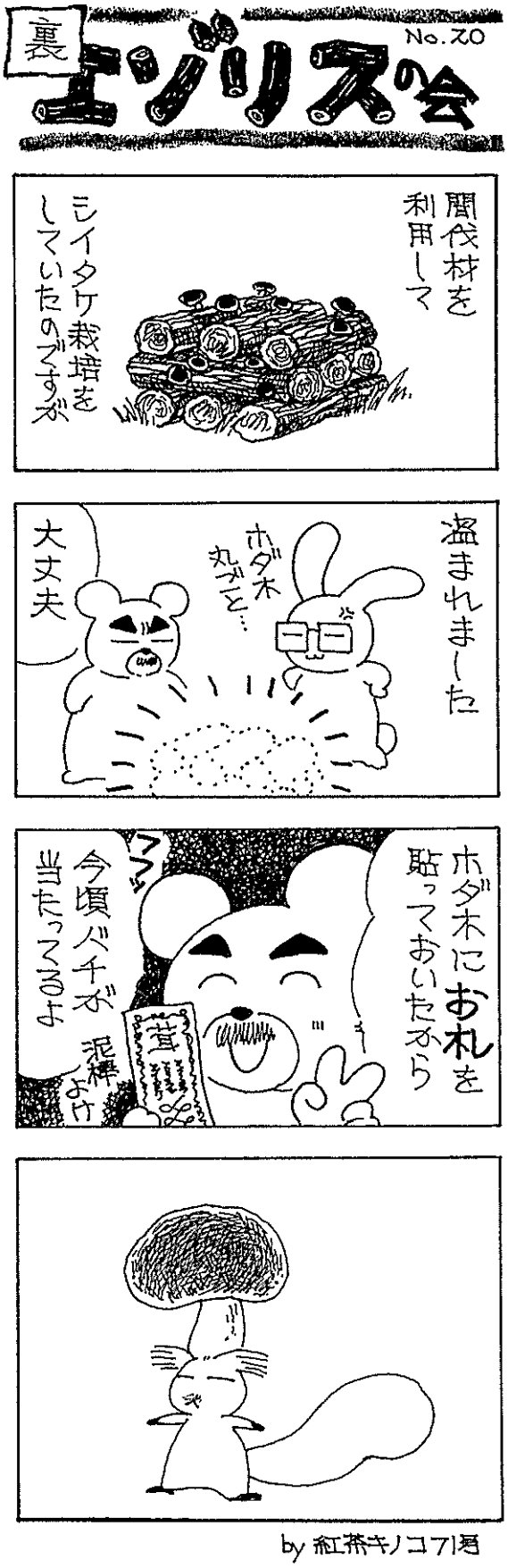
畜大茶道部の皆さんにお茶をたてていただきました。

室内で集まることが少ないエゾリスの会にとって、新年会は貴重な機会です。

今回は十勝のアライグマの現状の発表（改めて聴くとやはりアライグマ対策は重要だと思いました）と、動物の骨格などの標本おさわり会（大人気だ！）、里山Ｐと茶道の関係、畜大の森づくりサークル「もりとも！」の活動報告など盛りだくさんでした。

恒例の初釜は畜大茶道部に参加していただきましたが、雑談しているうちに来年の野点（のだて）の企画ができてしまいました！こういうの、楽しいですね。

みなさん今年もよろしくお願いいたします。



エゾリスの会　会報 108 号　　発行日：2016.2.25
発行　エゾリスの会（事務局）
〒080-0027　帯広市西 17 条南 3 丁目 6－14
☎0155-33-4223
E-mail　　mikka-1@octv.ne.jp
ホームページ　http://ezori3.wix.com/ezori
非公式ブログ　http://d.hatena.ne.jp/noken/

編集後記

帯広から引っ越して３ヶ月が経った。新しく住んだ街でもエゾリスを見かける。ホッとするのは車が少ないので轢かれる心配がほとんどないこと。杖をついたお年寄りもベビーカーを押す親子ものんびり街を歩いている。特に意識しなくともエゾリスと人の共存はやさしそうだ。あとは厳しい冬が越せるかだけ。自らの野性を目覚めさせもう少し頑張っていこう！（さか）

エゾリス

会 報 第 109 号《印刷はモノクロ》

エゾリスの会は、1986 年に発足した環境系まちづくり団体で、野生小動物と人間とがより良く共存できる環境づくりを目指し、現在帯広の森で「里山づくり」、「動植物調査」、「観察会の実施」などの活動を行っています。

☆うっちーさんのエゾリス観察ルポ⑤ 逃げろ～何から？街のリスは天敵を怖がるのか？

目が合っちゃった。逃げる？逃げない？

☆エゾリスの会 2016 年度総会報告

今年の総会の話題は「最近、公園の餌付けが酷い。このままでは野生動物が危うい」でした。

うっちーさんのエゾリス観察ルポ⑤

逃げろ～何から？街のリスは天敵を怖がるのか？

※このコーナーではエゾリスの生態研究を行っている北大生、内田健太さんから届いた旬な情報（研究や観察で考えたことなど）を連載しています。

天敵に対する警戒心はどうなっているの？

さて、今回も街のエゾリスたちのちょっと変わった行動のお話をします。これまで私は、街のリスの警戒心が低いことや季節性が失われていることを明らかにしてきました。観察を続けるうちに「天敵に対する警戒心はどうなっているのか？」そんな疑問が湧いてきました。街のリスは人間と天敵を明確に認識しているのかもしれませんよね。

図１．使用したキツネの剥製。迫力あります

ということで、調べてみました♪結果は・・・

街と郊外のリスで、人間とキツネの剥製(天敵と仮定:図1)を近づけた時の接近可能な距離を比べました。その結果、街のリス(52 匹)では人間５m、キツネ 10m、郊外のリス(42 匹)では人間 18m、キツネ 20m と街と郊外で人間とキツネに対する警戒心が統計的に違うことが分かりました(予想通り！;図 2)。

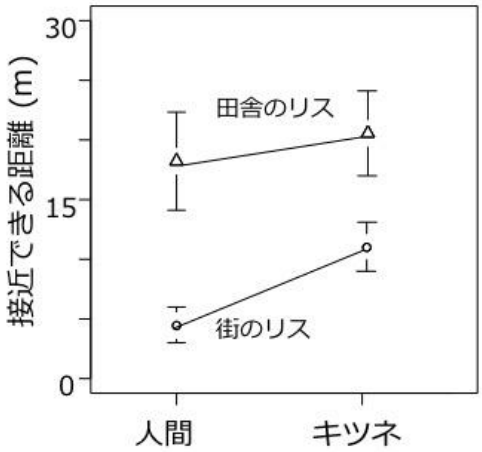


図２．街のリスは人間とキツネに対する警戒心が低く、さらに人間とキツネを区別しているようです

街で暮らし慣れると油断する？

ここで、興味深い点が２つ挙げられます。１つ目は、キツネの接近可能距離が街のリスで短くなっている点。これは、街のリスが天敵にすら警戒心を緩めていることを示します。彼らが安全な環境に慣れたせいでしょうか。街であっても、車を始め依然として様々な危険が存在します。交通事故との関係性が心配です。２つ目は、街のリスで人間とキツネの接近可能な距離が違う点。これは、人間と天敵を区別できている証拠です。

餌付けをするのは人間だけ

何が、彼らの人間と天敵に対する認識の違いを生み出しているのでしょうか？人間と天敵で決定的に違うことは何なのか？それは餌付けという行為かもしれません。人間と野生動物との関係を考える上で今後調べて聞く必要がありそうです。ちなみに、生きたトンビを近づけたり、段ボールに隠れて近づいたり(図３)と、実は色々試してみました。その話も、いづれ！

図３．研究者芸人　うっちー？

次回予告！

次回は、『生き物研究者、街へ出る』と題して、街を舞台にした生き物研究の楽しくもちょっぴり苦労したエピソードを紹介いたします。

☆エゾリスの会　2016 年度総会報告

５月 14 日（土）帯広の森はぐくーむで 2016 年度の総会が行われ、事業計画、予算について話われました。

エゾリスの会　2016 年度収支決算・予算書

2016年度収支予算書

単位：円

	15年度決算額	16年度予算額	増　減	備　考
収入の部	933,879	1,100,000	166,121	
支出の部	283,866	1,100,000	816,134	
次年度繰越金	650,013	0		

収入の部　　単位：円

科　目	15年度決算額	16年度予算額	増　減	備　考
1　会費	26,500	37,000	10,500	会員数50名
個人会員	11,500	17,000	5,500	34名
家族会員	10,000	15,000	5,000	15名
賛助会員	5,000	5,000	0	1会員
2　受託料	299,290	299,978	688	帯広市
3　事業収入	0	2,000	2,000	観察会参加費
4　雑収入	1,000	859	△ 141	前年度会費、寄付金等
5　預金利息	160	150	△ 10	
7　繰越金	506,929	650,013	143,084	
8　繰入金	100,000	100,000	0	
9　補助金等	0	10,000	10,000	
総　額	933,879	1,100,000	166,121	
＊　預り金	2,000	0	△ 2,000	前納会費

支出の部　　単位：円

科目	15年度決算額	16年度予算額	増　減	備　考
1　事務費	42,080	140,000	97,920	
消耗品費	3,689	50,000	46,311	コピー代、ラベル用紙、封筒等
写真プリント費	0	10,000	10,000	記録用
通信費	17,200	40,000	22,800	会報郵送費、切手、はがき
会議費	21,191	40,000	18,809	総会費、例会費
2　事業費	193,526	320,000	126,474	
印刷費	103,744	120,000	16,256	会報印刷費（一部カラーページ）
観察会費	3,304	30,000	26,696	保険料、資料等
パネル制作費	18,344	30,000	11,656	写真パネル等
他団体活動費	0	10,000	10,000	百年記念館友の会会費等
里山P費	68,134	130,000	61,866	保険料、資材費、チラシ印刷
3　調査費	0	150,000	150,000	
機器購入費	0	100,000	100,000	調査機器等
報告書作成費	0	30,000	30,000	印刷費等
調査費	0	20,000	20,000	調査関係費、資材費等
4　雑費	200	25,000	24,800	手数料等、
5　予備費	48,060	400,000	351,940	
6　広報活動費	0	60,000	60,000	リーフレット作成費
7　前払い費	0	5,000	5,000	
総　額	283,866	1,100,000	816,134	

里山プロジェクト費収支予算書（里山P費内訳）

科目	15年度決算額	16年度予算額	増　減	備　考
保険料	46,950	50,000	3,050	
資材購入費	21,184	30,000	8,816	土壌改良材、のこぎり替刃等
印刷費	0	20,000	20,000	チラシ印刷
会場借上費	0	10,000	10,000	新年会等会場費
雑費	0	20,000	20,000	
合　計	68,134	130,000	61,866	

モニタリング 1000 収支決算・予算書

２０１６年度予算書

単位：円

	１５年度決算額	１６年度予算額	増　減	備　考
収入の部	959,813	1,044,000	84,187	
支出の部	216,134	1,044,000	827,866	
次年度繰越金	743,679	0		

収入の部　　単位：円

科　目	１５年度決算額	１６年度予算額	増　減	備　考
1　受託料	300,000	300,000	0	日本自然保護協会
2　受託料事務費	0	0	0	
3　繰越金	659,813	743,679	83,866	Ｈ１５年度より
4　雑収入	0	321	321	
総　額	959,813	1,044,000	84,187	

支出の部　　単位：円

科　目	１５年度決算額	１６年度予算額	増　減	備　考
1　事務費	1,134	60,000	58,866	コピー代、写真プリント
2　委託料	115,000	150,000	35,000	各種調査入力委託
3　調査機器購入費	0	100,000	100,000	調査機器購入
4　雑費	0	150,000	150,000	全国大会・講習会・交流会等負担金
5　予備費	100,000	584,000	484,000	エゾリスの会会計へ振替等
総　額	216,134	1,044,000	827,866	

エゾリスの会が発足して今年で30年が経ちました。30 周年記念誌の発行も編集も始めなくてはなりませんね。

☆エゾリスの会　ホームページ・Facebook のご案内

Facebook　エゾリスの会議室（仮称）

帯広市内を主な活動エリアとしてエゾリスを始めとする野生動物とともに暮らせるまちづくりを考える市民グループ『エゾリスの会』の会議室。 会員であればどなたでも参加いただけます。管理者は会長の三日市則昭さん、伊藤育子さんです。参加希望の方は Facebook に登録の上、管理者に連絡してください。

エゾリスの会ホームページ　http://ezori3.wix.com/ezori

昨年立ち上げたホームページです。エゾリスの会を広く知ってもらえるよう、内容もこれから充実させる予定です。エゾリスのことだけじゃないエゾリスの会。これからもよろしくお願いします。

会費の納入についてのお願い

２０１６年度の会費の納入を受付けておりますので、よろしくお願いいたします。

当会は、皆様の貴重な会費で運営しておりますので、なるべく早い機会に収めていただければ幸いです。

〈封筒のお名前の下の番号が納めていただいている年度です。

例：１５Ａは２０１５年度個人会員、１５Ｂは２０１５年度家族会員、１５Ｃは２０１５年度賛助会員です。

【会員規定】

１．会費を納入することによりエゾリスの会会員となる。

２．会員となることにより、優先的に会の事業への参加、備品の使用が行える。

３．２年間会費を納入しなければ退会したものとみなす。

【会費区分】

個人会員（A）　　５００円

家族会員（B）　１，０００円

賛助会員（C）　１，０００円（１口）　２口以上

でお願いいたします。

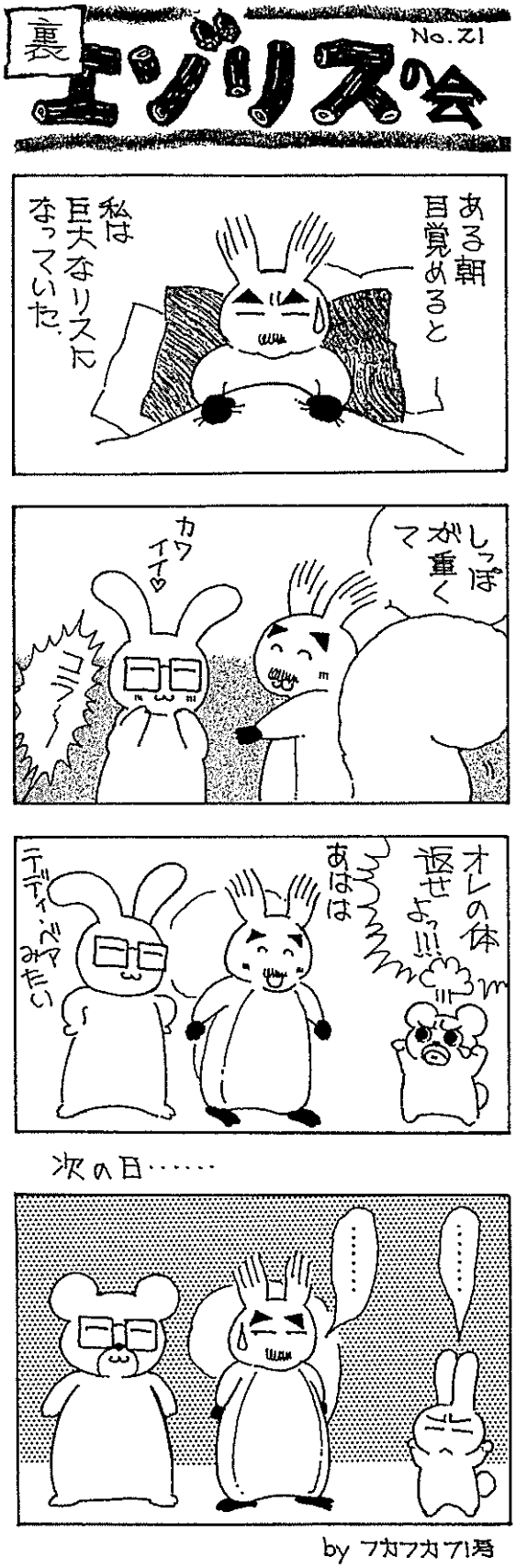
【納入方法】

・十勝・帯広の方は、同封致しました振込み用紙により帯広信用金庫本支店から振り込んでいただきますと手数料が無料となりますのでご利用ください。

・郵便局からは、郵便振替でお願い致します（手数料はご負担願います）。

振替口座番号：０２７１０－５－４６１６

振替口座名　：エゾリスの会



エゾリスの会　会報 109 号　発行日：2016.5.25
発行 エゾリスの会（事務局）
〒080-0027　帯広市西 17 条南３丁目６－14
☎0155-33-4223
E-mail　mikka-1@octv.ne.jp
ホームページ　http://ezori3.wix.com/ezori
非公式ブログ　http://d.hatena.ne.jp/noken/

編集後記

今月のうっちーさんの報告。自分にとって結構衝撃的に感じましたが、いかがでしたしょうか？人間とリスとの距離がこんなにも短くなっていること。ヤバくないですか？野生動物は野生を失ってほしくない。動物園じゃあるまいし、ましてやペットじゃない。共存とは決して動物を手懐けることではなく、互いに過度に影響しあわないこと。なのではないでしょうか（さか）

エゾリス

会 報 第 110 号《印刷はモノクロ》

エゾリスの会は、1986 年に発足した環境系まちづくり団体で、野生小動物と人間とがより良く共存できる環境づくりを目指し、現在帯広の森で「里山づくり」、「動植物調査」、「観察会の実施」などの活動を行っています。

☆うっちーさんのエゾリス観察ルポ① クラウドファンディングに挑戦します!!

加速度計を使ってエゾリスの様々な行動を明らかにする研究を始めます。

☆FGF(富士フィルム・グリーンファンド)の助成金が決まる！

26 年前、同じ助成金で、観察小屋を設置しました。今回は小屋の移設や外来植物群生地の植生変換、植生回復のモニタリングなどを行う計画です。

うっちーさんのエゾリス観察ルポ⑦

クラウドファンディングに挑戦します！！

※このコーナーではエゾリスの生態研究を行っている北大生、内田健太さんから届いた旬な情報（研究や観察で考えたことなど）を連載しています。

うっちーさん、クラウドファンディングに挑戦します

今回は『生き物研究者、街へ出る』のお話をするはずでしたが、次回に回して代わりに私の新しい研究プロジェクトの告知をさせて頂きます。７月１９日より学術系クラウドファンディング academist さんのご支援を頂き新たな研究を始めました。クラウドファンディングとは、『アイデア実現のための資金をインターネットを通じて多数の支援者から集める手法』です。つまり簡単いうと、一般の方々にスポンサーになって貰い研究を行う仕組みのことです。研究に配分される国家予算がどんどん減少する昨今、研究者などを始め様々な方々が国内外で挑戦しています。

都会のリスは過労気味？

さて、どんな研究をするかというと…ズバリ『都会のリスは過労気味？ 加速度センサーでその謎に迫る！』です！私の研究から、街のリスが森のリスよりも長い時間活動していることが分かってきました。当初私たちは、餌付けがたくさんされている街のリスは簡単に手に入るご飯を食べては寝て…を繰り返す『ぐーたらリス』を予想していました。

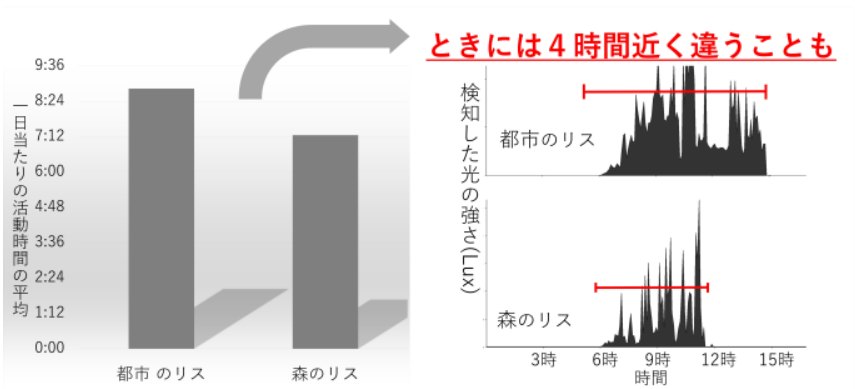


図１．街のリスと森のリスの活動時間

しかし結果は、街のリスの方が過労気味であるという予想に反したものでした。確かに街のリスはせわしなく動いています。人間も街の人ほど過労だといわれていますよね。なぜ街のリスも人間同様に過労気味なのか、今回の研究ではその謎に迫ります。天敵に怯える心配がないから？騒音や街灯による睡眠阻害が起きているから？過労の原因に迫るためには更なる詳細な行動分析が必要です。

超小型加速度計でリスの行動を追う。

そこで私が着目したのが、近年様々な生物で使われている『超小型加速度計(0.7g 程)』です。加速度計をリスにつけることで、起床や就寝、食事といった色々な行動を把握することができます。さらに、運動量も記録することができる優れものです。この加速度計を使いリスの一日の過ごし方や運動量を調べることで、都市環境の新たな影響を明らかにします。そして将来的には、人間を含めた生き物の都市型ライフスタイルの原型の解明に繋がれたらと考えています。

これらの研究にご支援いただけると幸いです。

しかし、機器が高額なため貧乏学生には私費での購入が難しいです。そこで、市民の方々にご支援をお願いしたいと考えプロジェクトを立ち上げました。ご支援を頂いた方々には『観察ツアー』など様々なお礼を用意しております。まだ未熟者ですが、少しでも人間と野生動物が共存できる環境づくりに貢献できるよう頑張って参ります。もし、ご興味を持って下さった方がおりましたら、Web サイト『academist（https://academist-cf.com/』をご参照の上、是非ともご支援いただけたら幸いです。

☆FGF（富士フィルム・グリーンファンド）グリーンファンドの助成金決まる！

このたび、エゾリスの会が申請していた公益信託富士フィルム・グリーンファンドの助成金が受けられることが決まりました。題目は「帯広の森における『ふるさとの森』づくりモデルプラン事業」です。今年度は今後行う事業のマスタープランの作成を行います。

現在のところ計画しているのは、観察小屋の移設、オオアワダチソウなどの外来植物群落地の植生変換、自然林からの在来植生の拡大モニタリングなどです。最長５ヵ年程度で助成金は終了しますが、帯広の森の里山づくりが円滑かつ効果的に進められるよう基盤整備を行い、これまでの里山づくり活動を含め、モニタリングし、その効果を検証していくことができたらと考えています。

もし優れた効果が得られたならば、行政とも連携を図りながら、今後の帯広の森の管理方法や計画についても提言が可能になると考えています。

マスタープラン作りから今年は始めますが、これらは一部の人の意見でまとまるものではありません。これまで、里山づくりをはじめ、エゾリスを含めた様々な生物の調査に携わった人、一人一人の思いを乗せてより成果の得られそうなやり方を探ることが必要だと思います。

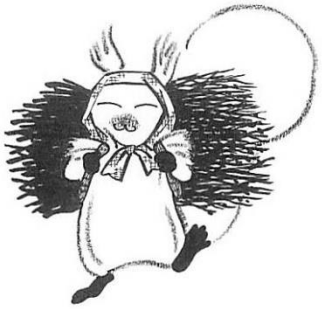
帯広の森が市民の手で木を植え始めてから 40 余年。森らしくなってきた箇所もありますが、まだまだ地道に人の手を入れて自然の回復力を助けた方がいいところもたくさんあります。そして森を育てるとともに、適度に利活用を交えながら、次世代の市民を育てる活動も大切なことではないでしょうか。

夏の風物詩、エゾクガイソウ。
オオアワダチソウに負けるなよ！

今回いただいた FGF の助成金は、こうした森をつくろうとしている私たちから未来の市民への投資なのかなと感じています。しっかり計画を立て、事業を行い、未来に残る良いものをつくっていきましょう。これを読んだ皆様で関心のある方は、是非エゾリスの会の活動にご参加ください。そして一緒に楽しみながら、そして、ときにはたくさんの汗を流しましょう。

（文責　坂村堅二）

在来種の植生回復の難しさを味わいながらも、一定の効果を得ることができたここ数年。これからもいい森を育てるために頑張ってね。



炭焼きと焚き火とロケットストーブ

坂　村　堅　二

エゾリスの会に入って何年経ったのか、自分でもよくは覚えていないが、何故かやめることなく楽しませてもらっている。生物調査も凝った時期もあったが、最近はさっぱり。

では何が好きかといえば、木を燃やすことだろうか。ここ数年やっていないが、

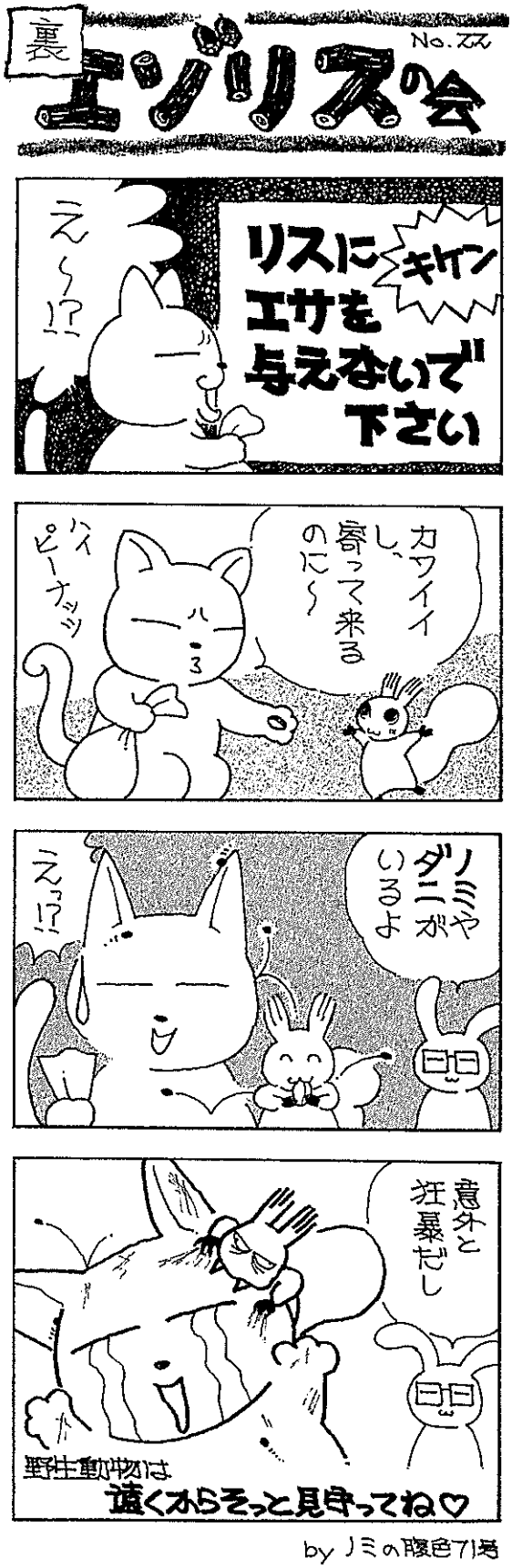
炭焼きはそれなりに自分の中でインパクトがあった。森を育てることと人間生活がうまく結びついた技術と感じたからだと思う。

焚き火は昔から好きだった。火を見ているといつの間にか時間を忘れ、その炎の暖かさに命を感じることもしばしば。焚き火と月と寝袋があれば幸せな夜は約束されたも同然だ。

ロケットストーブとの出会いはさらに人と炎について、そして森や樹木の豊かさを考える時間を自分に与えてくれた。

こうして考えると、今の自分のエゾリスの会のモチベーションは単純に火遊びがしたいからということになってしまうのが悲しい。まあ、それでもいい。これからも極上の火遊びを求めて、エゾリスの会を、帯広の森を大切にしていきたいと思う。

久しぶりに炭焼きがしたいな～。



エゾリスの会　会報 110 号　　発行日：2016.8.25
発行　エゾリスの会（事務局）
〒080-0027　帯広市西 17 条南 3 丁目 6－14
☎0155-33-4223
E-mail　　mikka-1@octv.ne.jp
ホームページ　http://ezori3.wix.com/ezori
非公式ブログ　http://d.hatena.ne.jp/noken/

編集後記

うっちーさんから、エゾリスの 1 日の過ごし方や運動量を調べる研究をしたいとクラウドファンディングの拡散のお願いがあった。エゾリスに限らず、都市環境は野生動物にどのような影響を与えているのか。それが分からずにいると、人間の生活の便利さの代償に野生動物が犠牲になっていたとしても気づくことはできない。研究ができることを祈りたい。（さか）

エゾリス

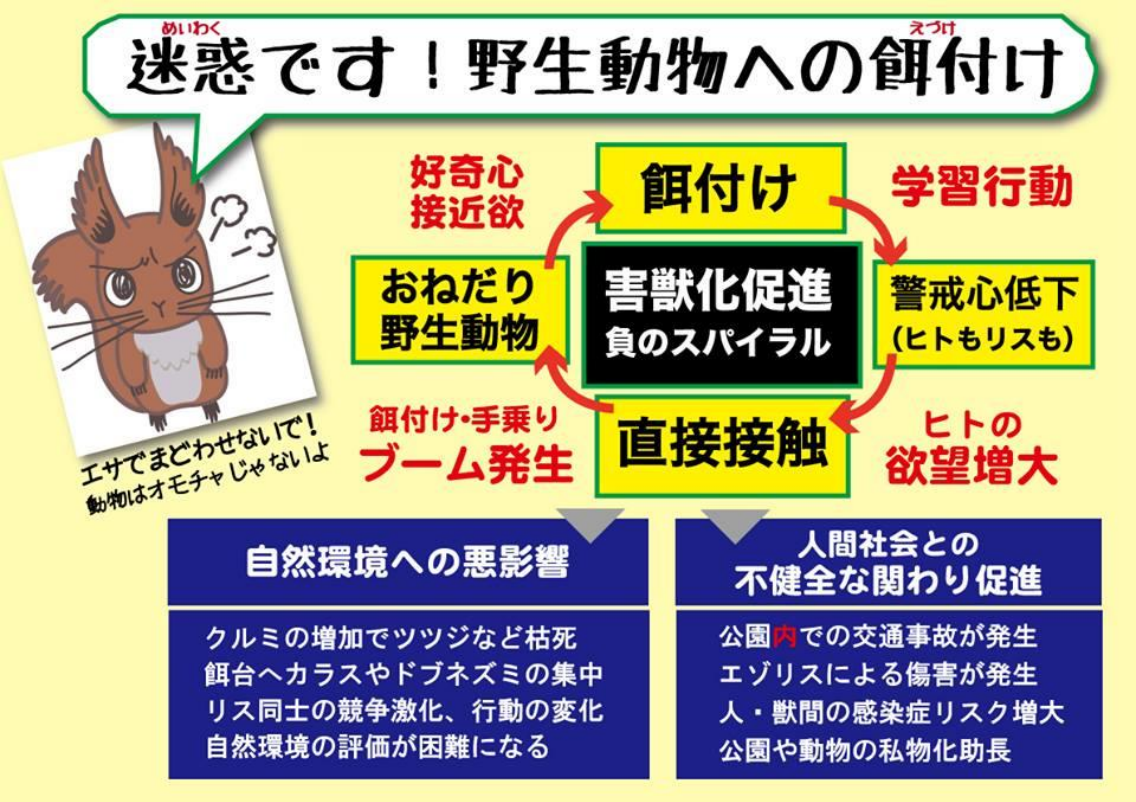
会 報 第111 号《印刷は1P.4Pカラー》

エゾリスの会は、1986 年に発足した環境系まちづくり団体で、野生小動物と人間とがより良く共存できる環境づくりを目指し、現在帯広の森で「里山づくり」、「動植物調査」、「観察会の実施」などの活動を行っています。

☆うっちーさんのエゾリス観察ルポ⑧ 生き物研究者、街へ出る

空飛ぶエゾリス 「とうっ！」

☆とかち・市民「環境交流会」に出展。テーマは「餌付けはヤメて！」です。



うっちーさんのエゾリス観察ルポ⑤

生き物研究者、街へ出る

※このコーナーではエゾリスの生態研究を行っている北大生、内田健太さんから届いた旬な情報（研究や観察で考えたことなど）を連載しています。

クラウドファンディング、目標額達成！感謝！！

皆様のお陰様で、クラウドファンディングPJ「都会のリスは過労気味？ 加速度センサーでその謎に迫る！」の目標額を達成することができました。皆様からのご支援を使わせて頂き早速、都会のリスたちのライフスタイルを明らかにすべく、加速度計の装着を行っております。

休日の札幌大通り公園にいるカラスたち

街での生き物調査の醍醐味

今回は『生き物研究者、街へ出る』と題して街での生き物調査にまつわるお話をします。街での調査にはこれまでの大自然での調査とは違った面白さや大変さがあります。例えば、街は人と野生動物の直接的な相互作用を間近で見られるフィールドです。時にせめぎ合いながら、時に共存し合う関係を特等席で見ることができるのは街の醍醐味です。

捕獲作業についての説明を明記した張り紙

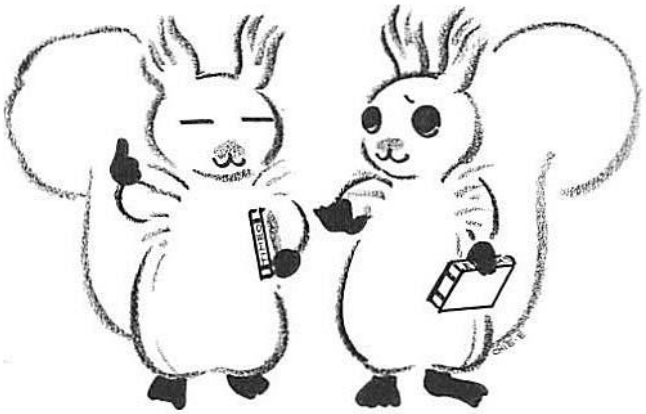
市民とのふれあいもあります。

また、公園利用者の人と話すことで研究や生物に対する市民の人の考えに触れることができる点もとても興味深いです。さらに、自分が市民の人の間で少し有名になっていたりすることも。。。「毎朝公園で段ボールに隠れて何かやっている変な人がいる」とか（段ボールに隠れてキツネの剥製を近づける実験をしていた時です）。

理解を得るのに多大なエネルギーも。

その一方で、公園での調査には人間関係に多大な時間とエネルギーを割かなくてはいけません。多くの人の目に付く場所で捕獲作業を行う場合には、公園を利用する市民の人に丁寧に説明し調査への理解・協力を得る必要があります。

これまで、どうしても理解が得られない人たちから妨害を受けることも少なくありませんでした。人の近くにいる生物たちの暮らしを理解するには、研究者と

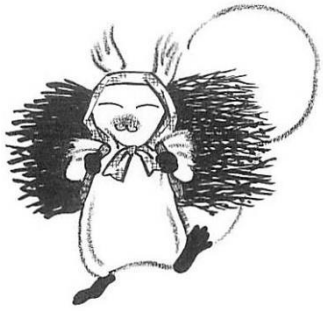


して必要な能力・技術を培うと同時に、今後これまでの生き物研究者が苦手としてきた一般の方々との良好な関係性の構築にも尽力することが重要になるのかもしれません。

街に暮らす人と野生動物をこれからも見続けます。

幸いにも私は、多くの人に支えられて札幌や帯広の街で思う存分研究ができています。本当に感謝です。今後も、街という少し特殊な環境で、そこに暮らす人と野生動物の両方に注目して少しでも未知を既知に変えられたらと考えています。

街を生活場所に選んだ人と野生動物。
うっちーさんの研究そのものだけでなく、人間同士のコミュニケーションが今後の両者にとって住みよい街に変えていくのかもね。



☆とかち・市民「環境交流会」に出展。テーマは「餌付けはヤメて！」です。

エゾリスの会会員　橋豊

11 月 23 日（水）とかちプラザを会場に、帯広市環境保全推進会議主催のとかち・市民「環境交流会 2016 に今年もエゾリスの会もブースを一つお借りして出展してきました。

今年は「野生動物への餌付け」にフォーカスを当てて展示を行いました。ブースにスタッフが応対した数は 20 名ほど。市内公園でエゾリスへの餌やりが日常化している現状に鑑み、抑制的な表現のパネルを配して説明。

応対した来場者の中に”餌やり禁止に反対”を主張する人はいませんでしたが、ハクチョウやタンチョウへの餌やりの経験のある方の体験を話される方がいました。

広報の一環として”エゾリス餌やり禁止”をモチーフにしたキャラクターカードをネックレス化し、児童を中心に 100 個ほどを配布しました。描かれたキャラクターがユーモラスで好評であったと思います。（製作されたＳさん、Ｅさん、ありがとうございました。）　「今回の展示でエゾリスの会は”野生動物への餌やり禁止”をアピールしました。会としてこの先の進め方を話し合ってもよい気がします。もちろんこれ以上行動しない選択肢もあると思います。展示会は会の主張をダイレクトに市民に伝えることができる場であり、もっと積極的にイベント等に出向いてエゾリスの会の主張を展開してはどうでしょうか。」

エゾリスの会会員だけでなく、一般の人を交えたこうした交流が実は市民の自然観や意識を変えるキッカケになるのかもしれませんね。

僕たち野生動物は市民のペットではありません。
自然の中で生きていくことは大変ですが、自分たちで餌を探していく力を持っていることを忘れないでください。

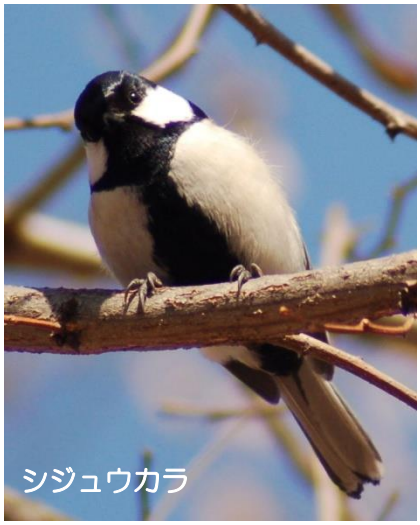
シジュウカラが好き♡

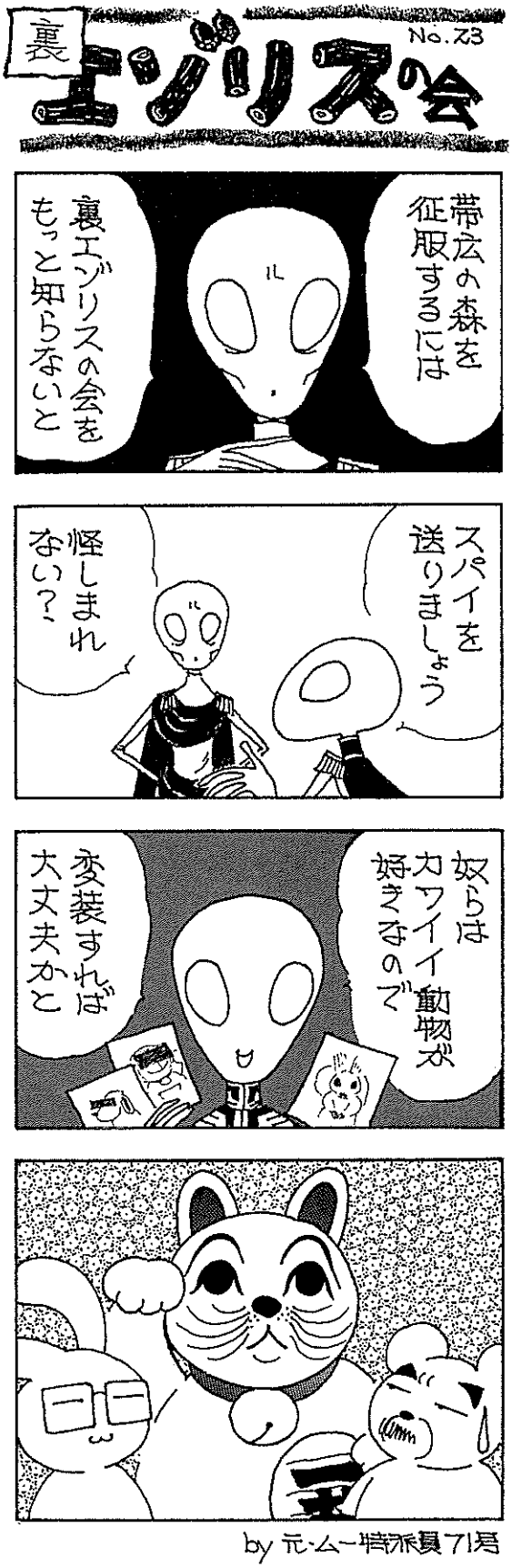
坂　村　堅　二

いつも焚き火の話ししかしていないので、たまには鳥の話も書いてみたい。秋から冬へ、冷たい手をさすりながらのフィールドワークは寒くて寂しいことが多い。それでもたいていの場合出会える鳥がある。それがシジュウカラだ。「ツピツピ、ジュクジュクジュ…」と鳴いてせわしなく小枝を飛び回る姿は本当に可愛い。

シジュウカラが好きな理由はもう一つある。それは他のカラ類やエナガ、メジロ、コゲラなど小さなヤツと種を交えて一緒に行動するフレンドリーさだ。もちろんこれが自分の主観であることは百も承知である。別にシジュウカラがフレンドリーだからではなく、餌のとり方の違いや外敵からの警戒など、異種であっても混群をつくるメリットがあるからなのだろう。

森の中でも、人家の近くでもどこでも見られる不思議な野鳥、シジュウカラ。今年、単語を組み合わせて文にして仲間に伝える能力を持つという研究が発表された賢い野鳥、シジュウカラ。この冬も「小さいヤツ集まれー、餌を取りに森を 1 周するぞー」とでも鳴いているのだろうか。ツピツピ♪


シジュウカラ



エゾリスの会　会報 111 号　発行日：2016.12.10
発行 エゾリスの会（事務局）
〒080-0027　帯広市西 17 条南 3 丁目 6－14
☎0155-33-4223
E-mail　mikka-1@octv.ne.jp
ホームページ　http://ezori3.wix.com/ezori
非公式ブログ　http://d.hatena.ne.jp/noken/

編集後記

今年も残すところあとわずか。夏に北海道を襲った水害はその爪痕を残したまま年を越えそうだ。果たして野生動物はこの水害による影響はどうだったのだろうか。生息地を簡単に移す能力を持っていれば問題は少なかろうが、人が知らないだけで多くの生命が失われたに違いない。人間の作ったインフラなど脆いもの。だが自然の復元力は偉大だと信じたい。（さか）